

1 9 0 5 - 2 0 0 5

KOBELCO

神戸製鋼100年

1 9 0 5 - 2 0 0 5

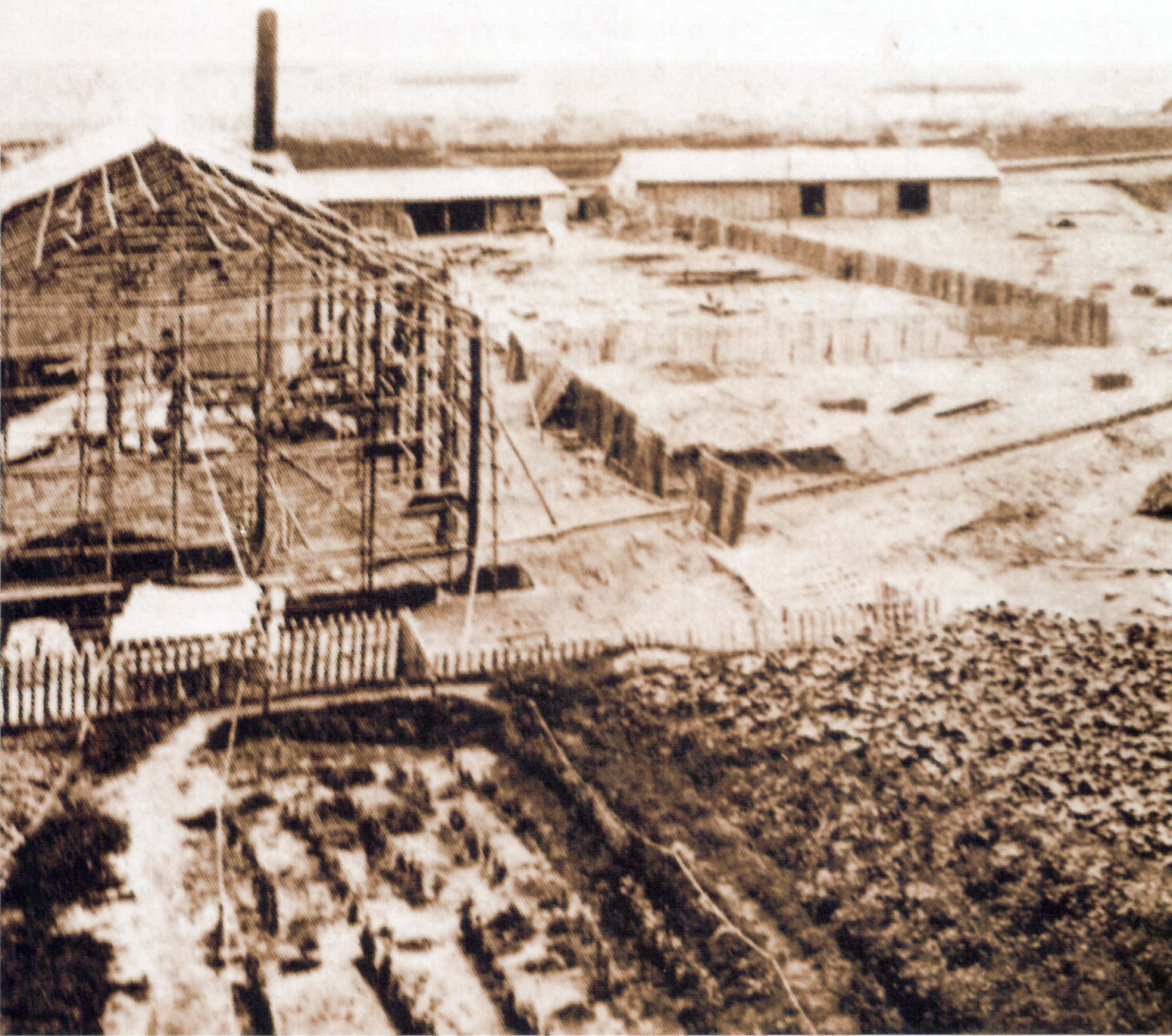


— 神戸製鋼100年の軌跡 —

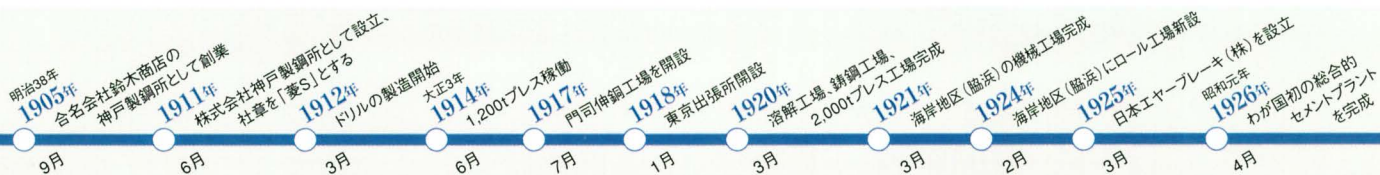
創始

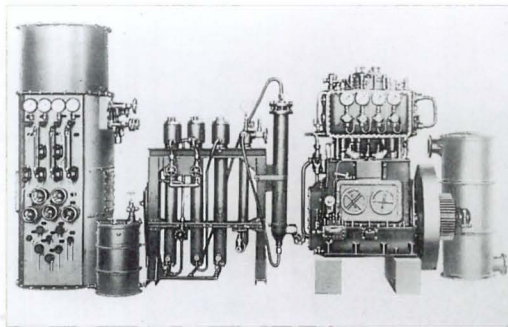
1905年 - 1945年

創業から戦前・戦中の事業活動



建設中の小林製鋼所

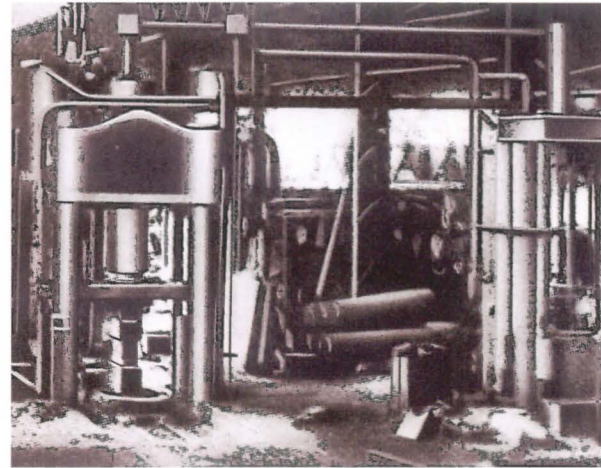




国産1号機の空気分離装置



国産1号機の電気ショベル



数々の高度な製品を生み出した1,200^{kg}プレス



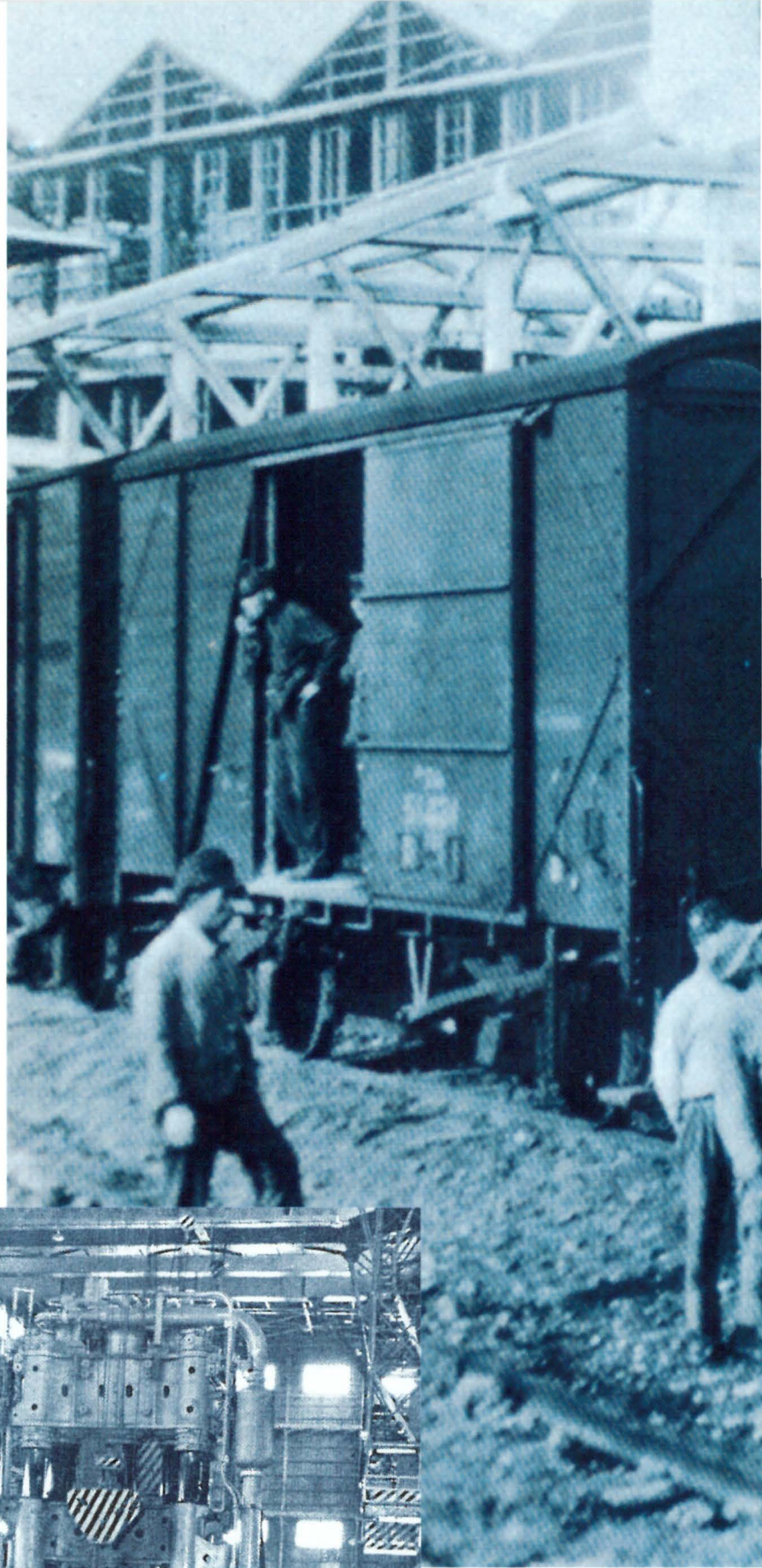
第1線材工場

10月 海岸地区に第1線材工場完成
 1930年 9月 国産1号機の電気ショベルを完成
 1934年 9月 国産1号機の空気分離装置を完成
 1937年 1月 株式を東京・大阪・神戸の各取引所に上場
 1939年 2月 名古屋工場 操業開始
 1939年 7月 長府工場 操業開始
 1940年 7月 東海岸地区に溶接棒工場を新設、わか国最初の生産を開始
 1942年 3月 大久保工場を開始
 1943年 3月 下関工場(のちの長府北工場、現・神鋼特殊鋼管(株))を新設
 1945年 9月 神鋼病院を開設
 1945年 5月 高知電気冶金(株)を買収し高知工場とする
 1945年 9月 中津・小倉・赤穂・玉島工場を返還 本社工場を存続
 1945年 11月 13工場を存続
 50^{kg}平炉に再開の火入れ

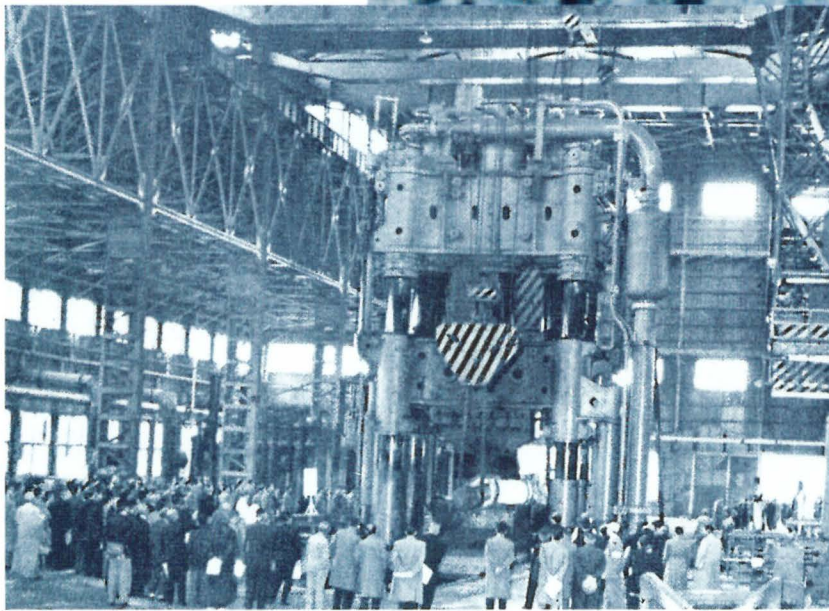
建設中の神鋼病院



創立50周年記念式典



5,000tプレスを設置した高砂工場の開所式



昭和21年
1946年

本社海岸地区に
鉄道引き込み線を新設

10月

11月

山手地区に珪藻鉄器工場を
新設

太平洋商事(株)
(現:神鋼商事(株))を設立

11月

1949年

神鋼金属工業(株)および
神鋼電機(株)を当社から
分離独立

8月

金属チタンの研究を開始

9月

1950年

西海岸地区に酸素工場を新設。
わが国初の本格的
酸素製鋼を開始

2月

1951年

米国のアリス・チャーマース社から
セメント機械、鉱山機械の
技術導入

9月



構築

1946年—1955年

戦後復興から創立50周年

本社海岸地区の鉄道引き込み線

1953年

朝鮮戦争の特需により
注文増える

2月

11月

旧陸軍造兵廠の払下げを受け
高砂工場を開設

1954年

尼崎工場を分離し、
神鋼鋼線鋼索(株)
(現・神鋼鋼線工業(株))を設立

4月

6月

妹畑部門を分離し
神鋼フアグドラー(株)
(現・(株)神鋼環境ソリューション)
を設立

11月

尼崎製鐵(株)に資本参加

1955年

溶接棒の販売組織
「神溶会」が正式発足

5月

6月

創立50周年を記念して
2代目神鋼病院完成

7月

日本高周波鋼業(株)に
資本参加

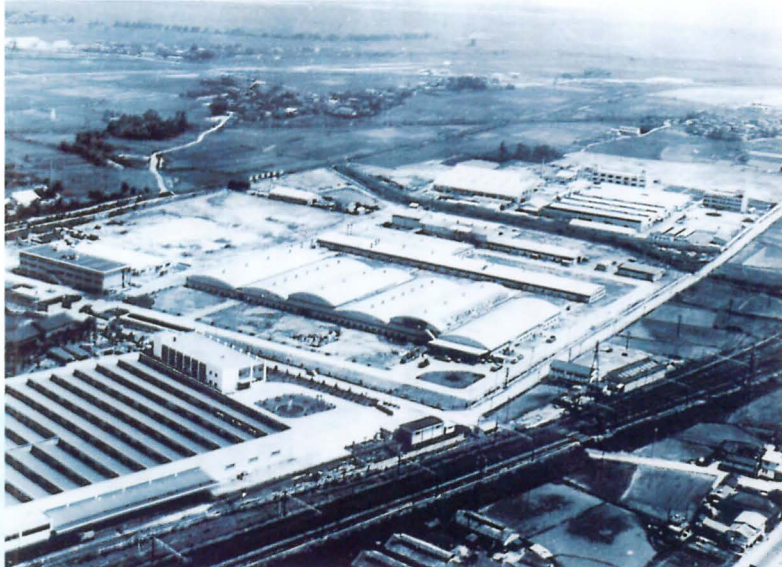
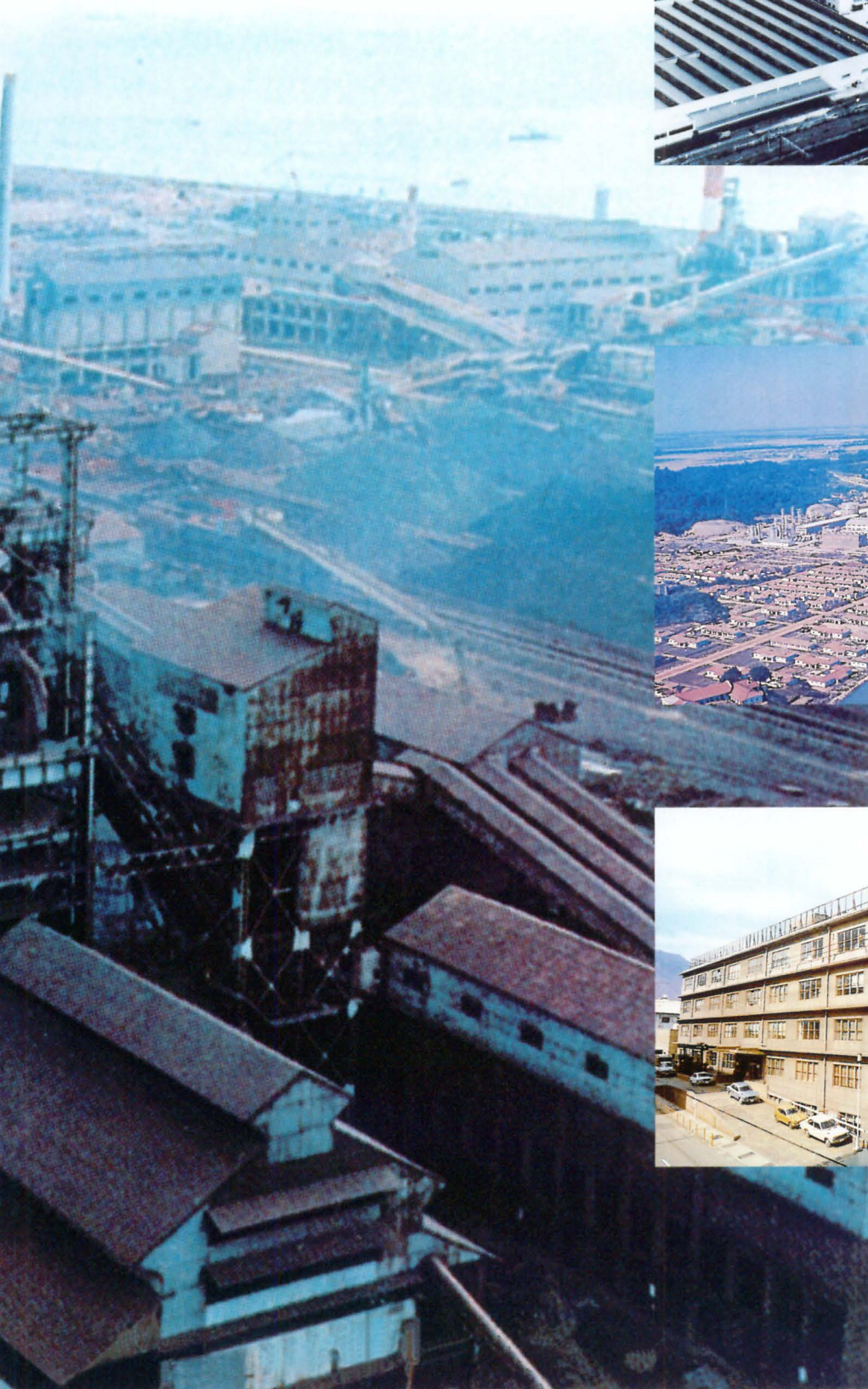
拡充

1956年 - 1969年

経営近代化の推進



- 昭和31年 9月 1956年 SRMスクリュウ圧縮機の製作開始
- 1957年 1月 神鋼金属工業(株)を合併
- 1958年 7月 バグ・オ・マチック・タイヤプレス 1号機完成
- 1959年 1月 瀬浜第1号高炉火入れ。 統鋼一貫体制成
- 11月 高砂工場に チタン溶解工場完成
- 1960年 4月 第1回田宮賞表彰
- 4月 中央研究所完成
- 9月 ニューヨーク事務所を開設
- 1961年 3月 藤沢工場完成
- 10月 茨木工場完成
- 1962年 1月 プラント輸出による 東巴基斯坦肥料 工場完成



茨木工場



東パキスタンに建設した肥料工場



中央研究所

5月 明石工場完成

1964年

9月 浅田基礎研究所完成

10月 羽田線の総アルミ製モノレールカーに、当社の耐食アルミ合金が使用される

1965年

4月 尼崎製鐵(株)を合併

1966年

11月 溶接棒の生産、月産1万t達成(世界1位)

1967年

6月 栗野工場新設

アマケンサジ工業(株)を神鋼建材工業(株)に改称

1968年

4月 加古川厚板工場完成

11月 高砂工場に大型製缶工場完成

1969年

8月 真岡工場完成

11月 神戸工場に第7線材工場完成



加古川製鉄所第1号高炉火入れ式



加古川製鉄所

昭和45年 4月 尼崎に構造研究所を新設
 1970年 7月 西条工場完成
 8月 加古川製鉄所第1号高炉火入れ
 11月 PWS工法による関門橋のメイン・ケーブル架設工事完了
 1971年 3月 真岡工場にアルミ冷間圧延工場完成
 8月 東京支社を東京本社に改称し、2本社制とする
 1972年 1月 技術開発本部新設
 4月 大久保工場に汎用圧縮機工場完成
 6月 1975年 日高工場、高砂鋳鋼工場がASME規格の認定工場に指定
 8月 福知山工場完成
 1976年 4月 高砂事業所に世界最大級の大型鋳鋼工場および超大型電気ショベル工場完成
 6月 1977年 機械研究所新設
 7月 新交通システムボートライナー建設工事を受注



カタールの製鉄プラント

新交通システムポートライナー（神戸市）



成長

1970年 - 1986年

総合鉄鋼メーカーへ

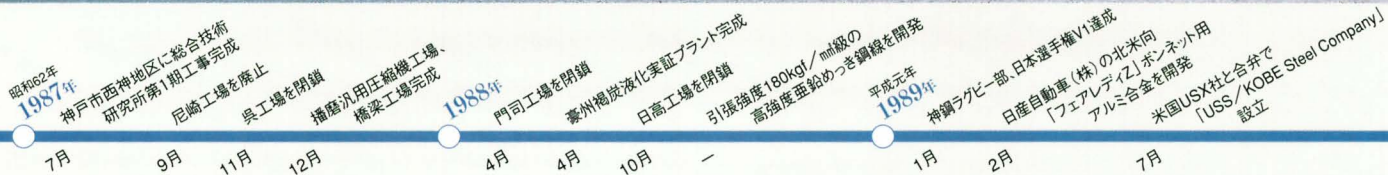
- 1978年 4月 プラント輸出によるカタール製鉄所完成
- 1979年 3月 溶接ロボット「アークマン」を開発
- 6月 (株)神戸環境分析センター設立
- 9月 (株)コベルコ科研(現: (株)コベルコ)を国際統一商標として「KOBELCO」を制定
- 1980年 5月 神鋼加古川病院完成
- 12月 本四公司から大鳴門橋ケーブル架設工事を受注
- 1981年 7月 米国P&H社へ資本参加
- 8月 1983年 米国ミッドレックス社を買収
- 4月 1984年 神戸製鉄所の新機鋼工場が完成
- 8月 1985年 中央研究所内に生物研究所新設
- 12月 線材の生産累計業績が3,000万tを突破(世界新)
- 6月 1986年 神鋼コベルコ建機(株)設立



躍進

1987年 - 1994年

複合経営の推進





半無響室



播磨工場



超電導マグネット

1990年 9月 世界最大のアルミメーカー、Alcoa社(米)と提携
 1991年 6月 神戸製鉄所第3号高炉の操業で微粉灰吹込み量182kgの日本記録を達成
 8月 明石海峽大橋のケーブル工事を共同受注
 アルミ形材が新幹線300系のぞみに採用される
 1992年 11月 豊橋FA・ロボットセンター完成
 1993年 2月 岩屋工場を閉鎖
 5月 高砂に新機械工場完成
 9月 大安工場第1期工事完成
 1994年 5月 新神戸病院が完成
 世界最高水準の超電導マグネットを開発
 制振アルミ形材ダンシエーブを開発

復興

1995年 - 1999年

阪神・淡路大震災を乗り越えて



明石海峡大橋

平成7年
1995年

神戸ラグビー一部、
日本選手権V7達成

阪神・淡路大震災で
総額1,020億円の被害を受ける

名古屋工場を閉鎖

震災で緊急停止していた
神戸製鉄所第3号高炉に
再火入れ

都市型ケア付マンション
「ドマーニ神戸」完成

東京都に新交通システム
「ゆりかもめ」開通

1996年

IPP(電力卸供給事業)へ
参入決定

特殊鋼管事業を分社化して
神戸特殊鋼管(株)設立

神戸市東部新都心
事業へ参画

1997年

大久保北工場跡地に
オースタウン完成

1月

1月

3月

4月

10月

11月

3月

4月

6月

10月



震災で被害を受けた神戸製鉄所



「アルミろう付ハニカムパネル」および「ダンシェーブ」が採用された「500系のぞみ」



環境配慮型マグ溶接用ソリッドワイヤ「SEワイヤ」

建設が進む神戸市東部新都心



1998年

4月 明石海峡大橋開通

8月

環境に配慮したクロメートフリー鋼板を開発

1999年

3月 神鋼神戸発電所着工

3月

豊橋FA・ロボットセンター開鎖

4月

社内カンパニー制導入

5月

しまなみ海道開通

10月

建設機械カンパニーを分社化してコベルコ建機(株)設立

10月

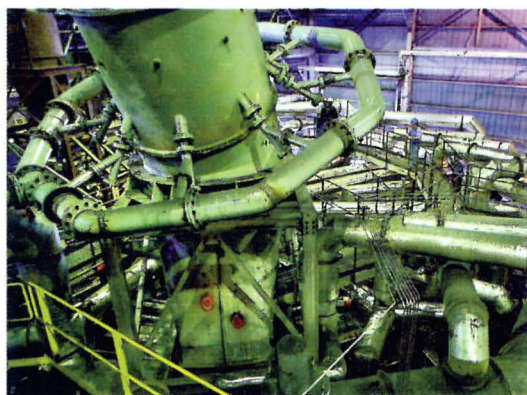
加古川製鉄所のTmk3実証プラントが運輸運転に成功

11月

環境配慮型マグ溶接用ソリッドワイヤ「SEワイヤ」を開発



汎用圧縮機「コベライアン」



ITmk3実証プラント



アルミボトル缶



平成12年
2000年

1月 神鋼コベルコントロール(株)を譲渡

4月 塗装ロボット事業とハンドリングロボット事業を譲渡

4月 アルミボトル缶登場

6月 「企業倫理綱領」を制定

11月 青森県のゴミ処理施設に流動床式ガス化溶融炉を製作

2001年

4月 加古川製鉄所でゼロエミッションを達成

9月 神戸製鉄所がオールバレット操業を開始

10月 「神戸ウイングスタジアム」完成

2002年

4月 神鋼神戸発電所1号機が営業運転を開始

4月 汎用圧縮機「コベライアン」発売

4月 「瀬浜ガーデンバーデン」、「瀬浜スポーツゾーン」オープン

11月 新日本製鐵(株)、住友金属工業(株)と3社間包括提携

飛躍

2000年 - 2005年

新たなる挑戦 創立100周年を迎える



2003年
4月 (株)アーステクニカ設立
8月 Alcoa社と
新たな提携関係に合意
9月 ナブテスコ(株)設立
10月 KOBE・JFEウエルディング(株)
設立 (株)神鋼環境ソリューション設立

2004年
1月 神鋼ラグビー部がジャパンラグビー
トップリーグの初代チャンピオンに
3月 超電導マグネットで世界最高
(21.9テスラ)の磁場を実現
4月 (株)コヘルコ マテリアル銅管
設立
4月 神鋼神戸発電所2号機が
営業運転を開始

2005年
1月 「蕨浜サイエンススクエア」オープン
9月 神鋼JFE機器(株)設立
10月 創立100周年を迎える
神鋼不動産(株)設立

創立100周年記念事業

発祥の地 記念碑建立の儀

「除幕式」 (2005.9.1 神鋼病院前)



「奉祝祭」 (2005.9.1 神戸製鋼所 神戸本社)



犬伏社長による玉串奉奠



創立100周年記念式典

(2005.9.1 神戸ポートピアホテル)



犬伏 恭夫代表取締役社長 挨拶



坂本 靖幸労働組合中央執行委員長 祝辞



水越 浩士代表取締役会長 万歳三唱



社歌演奏



創立100周年記念感謝状贈呈式

(2005.9.1 神戸ポートピアホテル)



創立100周年記念事業

創立100周年記念祝賀会 (2005.9.1 神戸ポートピアホテル)



犬伏泰夫代表取締役社長 挨拶



当社幹部による立礼



井戸敏三兵庫県知事 祝辞



鏡開き



矢田立郎神戸市長 祝辞



福水健文経済産業省
近畿経済産業局長 祝辞



水越浩士代表取締役会長 中締め



会場風景



地域貢献活動



神鋼かこがわフェスティバル

ノーベル賞受賞者野依良治先生の講演会



記念クラシック
コンサート
(大澤 壽人作品集)

灘浜グラウンドの改造、整備



展示コーナーの拡充ほか



神戸総合技術研究所ピオトープ



神戸総合技術研究所PRコーナー



東京本社PRコーナー

発刊の辞

2005年（平成17）9月1日、株式会社神戸製鋼所は創業100周年を迎えました。これを記念して、今日に至るまでの歴史を振り返り、先人の足跡に学ぶとともに、新しい時代への飛躍を期するため、このたび『神戸製鋼100年』を発刊いたしました。

当社の歴史は、1905年（明治38）に当時の商社、鈴木商店が小林製鋼所を買収し、神戸の脇浜の地で神戸製鋼所を興したことに始まります。当初は鑄鍛鋼メーカーとして事業を営んでおりましたが、その後、日本の経済発展とともに歩み、業容を拡大しながら成長を遂げ、現在に至っております。

顧みますと、創業以来の道程は決して平坦ではありませんでした。古くは1927年（昭和2）、親会社であった鈴木商店の倒産、第二次世界大戦後の企業解体と海外資産の没収、1970年代の二度にわたるオイルショック、1980年代半ばの円高不況などを経験いたしました。

しかし、何と申しましても鮮烈な印象として残っておりますのは、1995年（平成7）の阪神・淡路大震災による未曾有の被害であります。社員のかげがえのない命を失ったことに加えまして、神戸製鉄所の高炉が三ヶ月もの間、操業停止の已む無きに至るなど、被害の金額は1,000億円を越え、まさに存亡の危機に直面いたしました。

このように幾多の困難に遭遇しながらも、当社が100年もの長きにわたって存続できた所以は、偏に株主をはじめ、取引先、行政、地域社会の方々など、ご縁のある全ての皆様のご支援



があったからこそであり、感謝の気持ちで一杯であります。あらためまして、永年にわたる皆様方のご厚情に対し、心より御礼申し上げます。

当社は100周年という節目に立ち、新しい歴史の一步を踏み出しました。私どもを取り巻く環境は、これまで以上に激しく変わっていくものと思われます。その中で当社が今後も力強く生き残っていくためには、先人から継承した企業文化を誇りとして、神戸製鋼らしく、地道に、そして着実に歩むべきだと考えております。即ち、創業以来、連綿と受け継いできた「ものづくり」の精神を大切に、飽くなき探究心を持ち続けながら、弛まぬ努力を重ねてまいり所存です。そして、当社がコアビジネスとして掲げる三つの事業、「鉄鋼、溶接、アルミ・銅などの素材事業」「産業機械、建設機械、環境ソリューション、エンジニアリングなどの機械事業」並びに「電力卸供給事業（I P P）」を基軸として、「特長ある製品・技術・サービス」を創出し、社会とともに生きてまいります。あわせて、経済環境の波に左右され難い強固な企業体質を築き上げるよう、神戸製鋼グループの全社員が力を合わせて、皆様方のご期待に応えていく所存です。

最後になりましたが、内外の関係各位に重ねて深甚なる感謝の意を表しますとともに、今後とも一層のご指導とご支援を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

代表取締役社長 犬伏 泰夫

目次

口 絵

発刊の辞 犬伏泰夫社長

全体史編

第1部 戦前・戦中編

第1章 神戸製鋼所の創業と発展	40
1. 神戸製鋼所の創業	40
小林製鋼所の創業と失敗／40 鈴木商店の資本参加と「神戸製鋼所」創業／41	
創業時の苦難／42 事業継続の決意と順風到来／42	
2. 設備拡張と工場の増設	44
「株神戸製鋼所」独立と黒川社長の就任／44 工具事業への進出と、1,200トンのプレス導入／44	
協浜埋立てと非鉄金属事業への進出／45 機械メーカーへの道／46 経営の近代化／47	
第2代鈴木社長就任／47	
3. 第1次世界大戦後の反動不況	47
深刻化する不況と伊藤社長の就任／47 播磨・鳥羽造船所の買収／48 新製品開発に邁進／49	
新会社（日本エヤーブレーキ株式会社、紡機製造株式会社）の設立／49	
鉄鋼圧延分野への進出と線材製造の開始／50	
第2章 大恐慌を乗り越え、自立の道へ	52
1. 昭和大恐慌と親会社の破綻	52
昭和大恐慌の到来と鈴木商店の破綻／52 整理下の当社と永安社長の就任、播磨造船所の分離／53	
2. 恐慌下の生き残り施策	53
赤字計上と新規市場の開拓／53 高速ディーゼルエンジン／54 高圧圧縮機・高性能冷凍機／54	
電気ショベル／54 陸軍向け軍需品／55	
3. 第2線材工場の新設	55
平炉の増設と改造／55 第2線材工場の新設／56 特殊線材の試作に成功／57	
4. 第5代社長に田宮嘉右衛門が就任	58
台湾銀行の神鋼株放出／58 外部社長乗り込み反対運動起こる／58 田宮社長誕生／59	
第3章 戦時下における生産活動	61
1. 戦時体制への移行	61
軍の管理工場に指定／61 株式上場と社内体制の整備／61	
2. 生産の強化と新技術の開発	62
特殊鋼の技術確立／62 分塊工場の設置と特殊線材生産／63 ピアノ線生産と技術有効賞受賞／63	
溶銑炉建設計画／63 高知にフェロマンガンを生産工場を建設／64	
空気分離装置の完成と石炭液化研究所／64 興国工業研究所設立と飛行機・薄型鋳鋼品製作／65	
高級溶接棒の国産化に成功／65	

- 3. 相次ぐ工場の増設・新設 66
 - 神戸地区の拡張／66 軽合金工場の増設／67 電機関係工場の増設／68
 - 鋳鍛・造機関係工場の増設／68 溶接棒工場の増設／68 鉄鋼関係工場の増設／69
 - 海外工場の建設／69 戦争の激化と壊滅状態での終戦／69

第2部 戦後編

第1章 経営の合理化と積極的な技術導入 72

- 1. 企業解体と合理化への動き 72
 - 廃墟からの出発と浅田社長の就任／72 いち早い平炉再開／74 各工場も相次いで再開／74
 - 造機部門の復活／75 労働組合の結成／75 戦後処理と町永社長の就任、企業3分割／76
- 2. 朝鮮戦争の勃発と特需 77
 - ドッジラインと朝鮮戦争勃発／77 わが国初の金属チタンを開発／77
 - わが国初の本格的酸素製鋼に着手／78 山手溶接棒工場の建設と「神溶会」の設立／78
- 3. 欧米からの積極的な技術導入 78
 - アリス・チャーマーズ社との提携／78 ファウドラール社との合併新会社設立／79 RR鍛造法導入／79
 - その他の技術導入／79
- 4. 高砂工場の開設と鉄鋼一貫メーカーへの一歩 80
 - 高砂工場開設／80 神鋼鋼線鋼索の設立／80 尼崎製鐵への経営参加／80
 - 浅田社長の復帰と創立50周年／81

第2章 鉄鋼一貫体制の確立と経営の近代化 82

- 1. 鉄鋼一貫体制確立までの経緯 82
 - 神武景気到来と設備の改修・新設／82 日本高周波と尼崎製鋼所への経営参加／82
 - 鉄鋼一貫体制への機運高まる／83 灘浜に立地を決定／83 埋立て工事と環境への配慮／83
 - 灘浜第1期工事の完成／84 関西熱化学の設立／85 第4線材工場の新設と灘浜第2期工事／85
- 2. 技術導入と生産拠点の増設 86
 - 機械事業部の発足／86 スクリュー圧縮機、タイヤプレス機やチタンなどの製造開始／87
 - 神鋼金属工業株式会社の合併と合金事業部の誕生／87 シームレスパイプの生産／88
 - 溶接棒事業部の発足と藤沢・茨木工場の建設／88
- 3. 経営の近代化を図る 89
 - 外島社長就任と田宮記念事業の発足／89 常務会（経営会議）の設置／89
 - 中央研究所、浅田基礎研究所の設置／89 コンピュータの導入／90 近代的管理手法の導入／90
 - 労使問題の解決／91 神鋼病院の建設／91 新社歌の制定／92
- 4. 海外プラント事業への進出 92
 - 海外プラント事業への進出の背景／92 パキスタン肥料工場建設工事／92
 - チッタゴン製鉄所建設工事／93 海外事務所の設置／94
- 5. 設備資金の調達 94
 - 新しい資金調達の道／94

1. 尼崎製鐵の合併 95
合併にいたる経緯／95 尼崎製鐵合併と組織改正／95 鉄鋼不況と対策／96
2. 灘浜第3期工事の完成 96
工事の進捗／96 ベレット工場の操業／97 ソ連式連続鑄造設備の導入／97
昭和天皇・香淳皇后の行幸啓／98
3. 加古川製鐵所の建設 99
設備拡張への意欲／99 新製鐵所立地を加古川に決定／99 厚板工場の建設／100
加古川製鐵所、いよいよ着工／101 加古川製鐵所建設計画の基本構想／101 第1期工事の完成／101
加古川製鐵所第2期工事を着工／102
4. 昭和40年代の設備増強（加古川以外） 103
神戸工場の増強／103 西条工場新設と海外進出／104
軽合金伸銅事業部門の拡充 秦野工場、真岡工場の建設／104 機械部門の業容拡大／105
5. 人事・労政管理の変遷 105
井上社長の就任／106
6. 鉄鋼製品の需要拡大 107
長大橋への挑戦／107 異形棒鋼「デーコン」の好調／107 特殊鋼線材へのシフト／107
薄板需要の拡大／108 原子力発電用被覆管の開発／108 鉄粉材料の開発／108
7. 環境管理部の設置 109
8. オイルショックとその影響 109

1. 不況対策と企業体質の強化 111
構造不況の到来／111 鈴木社長の就任と不況克服へのチャレンジ／112 技術開発本部の設置／112
カタル製鐵所建設計画始まる／112 神鋼ビジネスマンの国際化に注力／113
2. 大型工場の完成 114
福知山工場新設と、高砂事業所における大型工場完成／114 原子力分野への進出／115
杉澤社長、高橋社長と相次いだ社長交替／115
3. 第二次オイルショックと減量経営 116
第二次オイルショックとその影響／116 加古川製鐵所への傾斜生産／116
高炉の自社改修技術を確立／117 アルミニウム製錬プロジェクトへの参画／118
4. 技術革新時代の到来 119
高齢化社会と停年延長／119 技術革新時代の到来／119 製鐵技術の革新／120
新合金の開発および特殊合金分野への取り組み／121 工具の高度化に対応／122
軽合金伸銅事業部門の集約と専門化／122 軽合金鑄鍛造部門の強化／123 チタン需要の急増／124
溶接材料系高機能素材の開発／125 塗装ロボット、アーク溶接ロボットの開発／125
建機サービス体制の拡充／126 高炉スラグの商品化／127 日本褐炭液化機の設定／128
国際統一商標「KOBELCO」の制定／129
5. 活況を呈するプラント輸出 129
エンジニアリング事業部の設立と機械事業部の再編／129 1975年以降のプラント実績／130
社会開発型プロジェクトの展開／131

- 6. 景気回復と新体制のスタート 132
 - 景気回復の兆し／132 牧社長の就任／133 神戸製鉄所新棒鋼工場の誕生／133
 - 生産現場の集約／134 新会社の設立／134
- 7. 新技術の導入と発展的技術提携解消 135
 - 超高压技術の躍進／135 ミドレックス社の買収／136 技術提携解消と、独自技術開発体制の確立／136
 - 技術力強化策と技術開発本部の再編／136 創立80周年を迎える／137

第3部 最近20年編

第1章 「合理化」による基盤強化と「攻め」への戦略展開 140

- 1. 経営合理化計画「NEW KOBE '88」の策定 140
 - 大幅な円高による鉄鋼業界の低迷／140 経営合理化計画「NEW KOBE '88」の制定／140
 - 「部-室」制の採用／141 グループ会社の設立相次ぐ／142 機械事業部の再編成／142
 - 呉工場、日高工場、大久保北工場、門司工場の閉鎖／143 NPS・TPM活動の推進／143
- 2. 新体制のスタート 144
 - 亀高社長の就任／144 新事業本部の新設／144 国内8営業所を支店に改組／145
 - 硬式野球団の加古川製鉄所移転／145
- 3. 高炉技術の革新 145
 - 全高炉でPCI設備が稼働／145 高炉の炉心制御技術の開発／146
 - 加古川製鉄所第1号高炉の再火入れ／146
- 4. 新工場の稼働と独創的な製品の開発 147
 - 播磨工場の稼働／147 全社プロジェクトの発足／147 独創的な新製品の開発／148
 - Kobe Steel U.S.A. Inc.の設立／151
- 5. 「POST '88」で「攻め」の経営に挑む 151
 - 「NEW KOBE '88」の完遂と「POST '88」の策定／151 組織の再編／152 大型設備投資の実施／152
 - 自動車プロジェクトチームの発足／153 自社遊休地の整理と「脇浜・岩屋開発推進プロジェクト」／153
 - 資本金を2,127億円へ増資／154 3期連続の増収増益／154
- 6. 研究開発体制の整備拡充に向けて 154
 - 神戸・西神地区に総合研究開発拠点を設立／154 筑波生物研究所の竣工／155
 - 日・米・欧3極研究体制を目指す／155
- 7. 経営のグローバル化を推進 155
 - 世界約70拠点を結ぶ国際VAN構築に着手／155 シンガポールとメルボルンに海外現地法人を設立／156
 - ロンドン証券取引所に株式上場を果たす／156
- 8. 企業イメージの向上を図る 157
 - 新しいテレビCMの放映／157
 - 「コベルコファミリーフェア」「神鋼かこがわフェスティバル」等の開催／157
 - 神戸製鋼ラグビー部、初の日本一に輝く／158
- 9. 事業のグローバル化を推進 159
 - アメリカUSX社と合弁事業体を設立／159 テキサス・インスツルメンツ社との合弁事業／159
 - 世界最大のアルミメーカー、Alcoa社と提携／160 機械事業のアメリカ進出／160

10. 内需拡大を追い風に業績を伸ばす 161
内需主導による日本経済の回復と活況/161 積極的事業展開と特長ある製品の開発/161

第2章 複合経営の拡充とバブル崩壊後の転換 163

1. 「ターゲット2000」の策定と複合経営の指向 163
新中長期経営計画「ターゲット2000」を策定/163 FA・ロボット事業の統合/163
ICデザインセンターの開設/164 KTIセミコンダクターの新工場竣工/164
神戸総合技術研究所の完成/164 第1回テクノフォーラムを開催/165 新神鋼病院の建設/165
2. IR活動の推進 166
IR活動の推進/166
3. 生産設備の強化と新規事業の立ち上げ 166
鉄鋼部門のリフレッシュ工事/166 高砂製作所に新機械工場を建設/167
大安工場の建設と稼働/167 FA・ロボットセンターの新設/168 神鋼アルコア輸送機材の設立/168
4. 全社をあげて環境保全に取り組む 169
「地球環境委員会」を新設/169 「地球環境保全基本方針」の策定/169
アルミ缶の再利用活動に取り組む/170
5. 平成（バブル）景気の終焉と改定中期アクションプランの策定 170
「バブル景気」の崩壊/170 '93~'95改定中期アクションプランの策定/171
全従業員を対象に一時帰休を実施/171
'93~'95改定中期アクションプランのローリングと本社部門の統廃合/172
6. 不況の中で当社を支えたヒット商品と事業群 172
『ガルバーエース潤滑処理鋼板』の開発/172 各種チタン/173
鉄道車両用大型中空アルミ形材/173 世界規模のサブストレート生産体制確立/173
汎用スクリュウ圧縮機/174 高性能破砕機/174 油圧ショベル 新型『ACERA』/174
ガラス建築/175

第3章 阪神・淡路大震災からの復興と新都心事業への参画 176

1. 阪神・淡路大震災の発生と復興への取り組み 176
神戸を直撃した未曾有の大震災/176 神戸地区を中心に、甚大な被害を受ける/176
当社設備の被害と復旧状況/177 全社の被害総額1,020億円に/179 復興推進本部を設置/179
尼崎市大浜、神戸市脇浜・岩屋の土地売却/179 '95~'97経営計画を策定/180
鉄鋼部門の設備更新と精鋭化/180 大安工場の稼働/181
2. HAT神戸建設と、IPP事業への参入 181
神戸市東部新都心への参画/181 電力卸供給事業（IPP）への参入を決定/182
「神戸灘浜エネルギー&コミュニティー計画」が復興特定事業に選定/183
3. ビッグプロジェクトへの参画 183
明石海峡大橋の完成と、当社グループの事業/183
西瀬戸自動車道（しまなみ海道）/184
4. 新中期経営計画「KOBELCO-21」の策定 185
熊本社長の就任/185 新中期経営計画「KOBELCO-21」の策定/186
重点プロジェクトの設定/186
5. 社員一人ひとりの環境マインドを醸成 187
「21世紀コベルコ環境創造プロジェクト」の推進/187 環境シンボルマークを決定/188

- 6. 次代を担う新事業の登場 188
 - シルバーサービス事業への進出/188 FASTMETプロセスの実証プラント稼働/188
 - 流動床式都市ごみ焼却プラントの開発/189

第4章 事業の「選択と集中」を徹底し、経営基盤を強化 190

- 1. 景気回復の遅れと日本の「失われた10年」 190
 - 消費税引き上げ等による、デフレスパイラル/190 高齢化社会と雇用不安が表面化/190
 - IT社会の到来とデジタル製品の普及/191
- 2. 「社内カンパニー制」の導入 191
 - 水越社長の就任/191 「社内カンパニー制」と「執行役員制」のスタート/192
 - 東京本社事務所を品川区北品川に移転統合/193
- 3. 事業の「選択と集中」を推進 193
 - 鋼管事業、工具事業の分社化を決定/193 コベルコ建機株式会社の統合/194
 - FA・ロボット事業の見直しと譲渡/194 アルミニウム資源プロジェクトの縮小/195
 - その他の事業再編/195
- 4. グループの成長を目指す「チャレンジ21」 196
 - 連結中期計画「チャレンジ21」の策定/196 電子・情報カンパニーの廃止と業務移管/196
 - スポーツ専門団の休部とラグビー部の名称変更/197 不動産カンパニーの発足/197
 - 景気の底を迎える/198
- 5. 重点戦略事業分野の推進 198
 - 自動車軽量化への対応/198 IPP事業の推進と神鋼神戸発電所1号機の稼働/200
 - 環境ビジネスの強化/201
- 6. 地域との共生に基づいた案件の受注 202
 - 自社跡地の再開発による新しい街「オーズタウン」/202
 - 人と街のコミュニケーション誌『ぼるたうん』の発刊/202 神戸ウイングスタジアムの建設/203
 - 神戸空港関連事業の受注/204
- 7. 環境経営への取り組み 204
 - 環境経営への取り組み/204 環境報告書を発行/204
 - コベルコ自然環境保全基金とコベルコ環境創造基金の設立/205 高炉原料等に廃プラを本格的な使用/205
 - 加古川製鉄所でゼロ・エミッションを達成/205
- 8. コンプライアンス体制の確立 206
 - 「企業倫理綱領」を制定/206 「コンプライアンス委員会」の設置/207
- 9. 競争力強化を目指す業務提携 207
 - 銅板圧延事業での業務提携/207 アルミ押出事業での包括提携/207 建設機械事業の包括提携/208
 - 新日本製鐵、住友金属工業との3社間提携/208 欧州2社との自動車用鉄鋼製品に関する技術提携/209
 - 破砕機事業の統合/209 Alcoa社との提携の見直し/210 KOBE・JFEウェルディングの設立/210
 - 鋼管事業での合弁会社設立/211 その他事業における業務提携/211
- 10. 「技術立社」を支える「オンリーワン、ナンバーワン」製品 212
 - 大入熱溶接用残留応力制御型厚鋼板「ヒズミレス」/212 組立型クランクシャフト/212
 - クロメートフリー鋼板『グリーンコートGX』/212 放熱性薄鋼板『コーベホーネツ』の開発/213
 - 環境配慮型マグ溶接用ソリッドワイヤ『SEワイヤ』/213 汎用圧縮機『コベライアン』シリーズ/213
 - 当社最大級の鋼構造製品「沖縄沈埋函」/214 スパッタリングターゲット材の拡販/214
 - 第3世代の新製鉄法『ITmk3』/214 アルミボトル缶材の開発/215 医療材料の伸長/215

第5章 グループ経営を推進し、創立100周年へ—————216

1. 2005年度を目標に連結中期経営計画を策定 216
平成不況からの脱出と、鉄鋼業界の好調／216 2003-2005年度連結中期経営計画／216
6年ぶりの復配を果たす／217 犬伏社長の就任／217 収益関連指標を1年前倒して達成／218
2. 神戸製鋼グループの総合力を高める 219
グループ環境経営の推進／219 IPP第2号機の稼働と「灘浜サイエンススクエア」の完成／219
鉄鋼部門の生産能力強化を目指した設備投資／220 再編によるグループ会社の強化／220
中国市場における事業の拡大／221 グループ最適経営を目指して／222
3. 創立100周年を迎える 223
創立100周年事業がスタート／223 創立100周年記念式典・祝賀会の挙行／223

部門史編

第1部 本社部門編

第1章 本社部門—————231

1. 本社組織の主な変遷 232
2. 法務・コンプライアンス 234
法務／234 コンプライアンス／235
3. 人事労務・福利厚生・安全衛生 236
4. システム（通信・コンピュータ関連） 239
通信の高度化への取り組み／239 社内システム高度化への取り組み／240
5. 財務・経理 242
財務／242 経理／246
6. 支社・支店 248

第2章 環境・エネルギー部門—————251

1. 高度経済成長期における取り組み（1950年代半ば～1972年） 252
社会の動向／252 当社の取り組み／252
2. 都市型公害が顕在化した時期の取り組み（1973年～1980年代後半） 253
社会の動向／253 当社の取り組み／253
3. 地球環境問題が認識された時期の取り組み（1985年～1996年） 254
社会の動向／254 当社の取り組み／255
4. 持続型社会構築を目指す時期の取り組み（1997年～2005年） 257
社会の動向／257 当社の取り組み／257 結び／261

第2部 技術開発部門編

第1章 技術開発部門 265

1985年（昭和60）までの歩み 266

創業から終戦までの技術開発（1905～1945）／266 戦後復興と研究所設立（1945～1973）／267
技術開発本部の設立と技術力の強化（1974～1985）／268

1. 最近20年の歩み 271

概括／271 新規分野への展開と戦略の見直し／272 研究開発体制の再編・整備／273
ナショナルプロジェクトへの積極的参画／274 環境・資源エネルギー分野への取り組み強化／275
事業部門およびグループ企業との連携強化／275 シミュレーション技術の進展／276
知的財産への対応力の強化／276

2. 最近20年の各分野における技術開発の歩み 278

材料分野／278 機械分野／282 エレクトロニクス分野／285 共通基盤・生産技術分野／287
技術開発本部 組織の変遷／290

第3部 事業部門編

第1章 鉄鋼部門 293

1985年（昭和60）までの歩み 294

鑄鍛鋼メーカーとしてスタート（1905～1915）／294
線材・棒鋼の本格生産を開始（1916～1945）／294
銑鋼一貫体制の確立と独自の製品開発（1946～1964）／295
高度経済成長のもと加古川製鉄所を建設（1965～1974）／296
経営体質の強化と神戸製鉄所リフレッシュ計画（1975～1985）／297

1. 最近20年の歩み 299

薄板を中心とする高付加価値化と生産の効率化／299
海外における生産基盤の確立、条鋼系の一層の競争力強化／300
阪神・淡路大震災を乗り越えて／301 線材・棒鋼は世界一を不動に、薄板・厚板は独自性を／302
特殊鋼線材と薄板ハイテンを軸に自動車分野に注力／303 ユーザーに不可欠なサプライヤーとして／304

2. 技術と生産 305

加古川製鉄所 世界第一級の設備と技術を誇る／305 神戸製鉄所 最高級の線材・棒鋼を生産／311
高砂製作所 高品質の鑄鍛鋼、鉄粉を生産／315
長府北工場（現・神鋼特殊鋼管株式会社） 生産能力の増強を図る／317
チタン 溶解から製品までを一貫生産／317

3. 製品開発・受注 318

線材・棒鋼 世界トップクラスの品質を誇る／318
厚板 造船、建築・橋梁など幅広い産業分野に供給／319
薄板 自動車・家電業界の高付加価値ニーズに応える／320
鑄鍛鋼 高品質の製品を開発／323 鉄粉 自動車部品用高品質鉄粉の開発／323
チタン 航空宇宙関連から一般消費財まで／324
その他 日本初のスチールハウス建設に着手／326

4. 海外事業 327
世界同一品質体制を目指して／327

第2章 I P P 部門 331

1. 事業化への歩み 332
電力卸供給事業への参入を決定／332 関西電力㈱の電力卸供給入札に応札／332
神鋼神戸発電所の概要／333
2. 神鋼神戸発電所の建設 333
工事に先がけて環境アセスメントを実施／333 神鋼神戸発電所の建設に着手／334
神鋼神戸発電所1号機の運転開始／334 建設工事中も周辺地域に配慮／334
総合的な環境保全対策を実施／335 第2号機の運転開始／335
プロジェクトファイナンスの採用／336
「神戸灘浜エネルギー&コミュニティ計画」が復興特定事業に指定／336

第3章 溶接部門 339

- 1985年（昭和60）までの歩み 340
溶接棒国産化の機運により生産開始（1932～1945年）／340 戦後の民需に対応（1945～1959年）／340
高度成長期における工場の増設と新鋭化（1960～1976年）／341
低成長時代の到来と海外拠点の設置（1968～1979年）／341
溶接の効率化、生産性向上の追求（1980年～）／342
1. 最近20年の歩み 343
溶接材料のトップブランドを維持／343 溶接材料部門のグローバル化／344
他社との提携による溶接事業の強化と拡大／345 商社とのコラボレーションによる販売会社の設立／346
溶接システム事業の強化と拡大／346 溶接周辺技術の幅広い提供／347
2. 技術と生産 349
溶接材料・施工法の開発／349 溶接システムの進化／353 高機能材の開発／358 国内拠点／359
国内関連会社／360 海外関連会社／361

第4章 アルミ・銅部門 363

- 1985年（昭和60）までの歩み 364
銅製品製造からのスタート（1917～1930）／364
戦時下における航空機用部品の増産（1931～1944）／364
分社時代とアルミ生産体制の充実（1945～1969）／365
需要拡大に伴う原料確保と価格変動への対応（1970～1980）／367
新合金開発時代到来と、生産集約体制の完了（1980～1985）／368
1. 最近20年の歩み 369
合理化と生産性向上のための事業改編／369 グローバル化の推進／370
主力製品に特化した重点施策／371
カンパニー制の導入とアルミ・銅カンパニーにおける「選択と集中」／373
2. 技術と製品開発 374
アルミ／374 銅／383
3. 生産拠点 385
真岡製造所／385 長府製造所／387 大安工場（名古屋工場）／388

秦野工場（現・株式会社コベルコ マテリアル銅管）／389 国内関係会社（アルミ関連）／390
国内関係会社（銅関連）／392 海外関係会社（アルミ関連）／392 海外関係会社（銅関連）／395

第5章 機械エンジニアリング部門 399

1985年（昭和60）までの歩み 400

空気圧縮機製作からスタート（1914～1945）／400 高度成長期の到来と技術提携（1945～1975）／401
プラント輸出事業への進出（1956～1985）／402
産業機械、圧縮機、破碎機分野の発展（1969～1980）／403
オイルショック後の対応と技術提携の解消（1973～1983）／404
建設機械事業の躍進（1975～1985）／405 プレス技術（1985年までの歩み）／406
原子力分野の発展（1969～1980）／407 社会開発型プロジェクト（1975～1985）／407
高機能機械の登場（1980～1985）／408

1. 最近20年の歩み 409

合理化と生産性向上のための事業改編／409 「攻め」の事業展開へ／410
経営体質の強化を目指して／411 事業の「選択」と「集中」／411 グループ最適化／412

2. 機械部門 413

産業機械分野 独自技術で多様な市場ニーズに応える／413
圧縮機分野 高効率・高性能の圧縮機、冷凍機を開発／425
破碎機・粉砕機分野 世界に誇る豊富な実績と卓越した技術／431

3. エンジニアリング部門 437

エネルギー・化学分野 国内外で活躍する各種プラント／437 産機プラント分野／440
原子力分野 世界の原子力産業を支える先進の機器・設備／441
鋼構造分野 地域の発展と環境保全に役立つインフラづくり／444
新交通分野 安全、快適な都市型交通システムを構築／446

第6章 新鉄源プロジェクト 449

1. Midrex法（ミドレックス） 450

ミドレックス社の買収／450 ブリケット化技術とプラントの大型化／450

2. FASTMET（ファストメット）・FASTMELT（ファストメルト）プロセス 452

石炭が使用できる還元鉄プラント／452 ガスト処理プラントとして注目される／452

3. ITmk3（アイティ・マークスリー） 453

第3世代の製鉄法として登場／453 エネルギー効率に優れ、CO₂排出量を低減／454

第7章 不動産部門 455

1. 不動産事業の拡充 456

太平ビルディングから神鋼興産へ／456 神戸製鋼の拡大に対応／458

2. 快適な住まいづくり、都市づくり 459

住宅の分譲・賃貸を中心に事業を展開／459 積極的な再開発事業の展開／461

3. 不動産事業の統合 463

不動産カンパニーから神鋼不動産へ／463

- 神鋼商事株式会社 466
戦後初のメーカー専門商社として誕生／466
高度経済成長とともに商社としての体制を固める／466
神戸製鋼の海外プロジェクトに積極的に参画／467
グローバル展開の推進と地球環境への配慮／468
- 神鋼電機株式会社 470
造船所内で船舶用電装品を製造／470 神戸製鋼の第2会社として独立／470
多彩な技術を活かし新製品開発に挑む／471
- ナブテスコ株式会社 473
鉄道車両用エアブレーキのバイオニアとして誕生／473 企業基盤の確立と生産体制の拡充／473
激動の時代に国際企業として挑戦／474
震災後の復興から、世界トップクラスの企業へ／475
- 日本高周波鋼業株式会社 476
日本高周波重工業の国内資産を継承／476 神戸製鋼の系列として好・不況に対応／476
品質向上と省力化を目指し自動化を推進／477 合理化と構造改革で平成不況に挑む／478
- 神鋼鋼線工業株式会社 479
鋼線製品の総合メーカーとして出発／479 株式の上場と、積極的なプラント輸出／479
線材製品業界のトップメーカーへ／480 地球規模で産業と暮らしの発展に貢献／481
- 株式会社神鋼環境ソリューション 482
珉瑯鉄器事業の拡大に伴い、独立会社へ／482
欧米企業との技術提携から国産化へのシフト／482
事業統合により多様な環境ビジネスに対応／483
- 株式会社コベルコ科研 485
環境分析の独立会社として発足／485 神戸製鋼の戦略事業会社として設備・人材を投入／485
画期的技術でターゲット材の世界市場へ参入／486
技術立社型企業としての発展に向けて／487
- コベルコ建機株式会社／コベルコクレーン株式会社 489
国産第一号電気ショベルの開発と積極的な技術導入／489
神鋼コベルコ建機の設立により流通を強化／490 コベルコ建機、コベルコクレーンの設立／491
- 神鋼建材工業株式会社 493
特殊なスチールサッシ・ドアを製造販売／493
圧接型グレーチングと防音サッシを2本柱に／493
付加価値の高い独自の製品開発を目指して／494
- 神鋼JFE機器株式会社 496
炭坑用機器とダンプカーを主力にスタート／496 伯耆振興工業から神鋼機器工業へ／496
再建を果たし、統合新会社の設立へ／497
- 神鋼造機株式会社 499
わが国初の本格的な油性試験機を製造／499 鉄道車両の近代化に多大な貢献／499
総合機械メーカーとして業界をリード／500

神鋼特殊鋼管株式会社 502

付加価値の高い特殊鋼管の製造に特化／502 設備の拡充とともに品質管理体制を整備／502

神鋼特殊鋼管として神戸製鋼より独立／503

資料編

505

社歌／社旗 506

歴代社長 508

現役員 512

役員在任期間一覧 514

原始定款 521

定款変更の沿革 522

現行定款 523

組織図 525

資本金の推移 526

従業員数の推移 527

売上高・経常利益の推移 528

株式発行数の推移 530

株価の推移 531

財務諸表 532

主な特許 536

受賞関係 538

事業所所在地 542

関係会社一覧

国内／544 海外／548

環境保全活動・省エネルギー活動の変遷 550

コンプライアンス 553

地域と共に 554

本史に登場する主な商標一覧 556

年表

557

あとがき

凡 例

1. 本史の記述は、原則として2005年（平成17）9月1日までとしたが、一部にその後の事項を記述した部分もある。
2. 本史の全体構成は、口絵・全体史・部門史・資料・年表とした。
3. 会社名は、国内の株式会社の場合、章の初出は株式会社としたが、再出する場合は原則として(株)とした。外国会社においては、原則として当社のグループ会社以外は「社」をつけた。
4. 個人名の敬称は省略し、役職名等は当時の呼称を記載した。
5. 官公庁・団体名・法律名等は、慣用的な略称を用いた場合がある。
6. 「漢字」は固有名詞および業務用語等を除き、原則として常用漢字を用い、「かな」は現代かなづかいによった。ただし、引用文は原則として原文のままとした。
7. 年次は原則として西暦で表示した。項の初出に和暦「明治」「大正」「昭和」「平成」をカッコ書きで併記し、再出の場合は原則として省略した。